

令和1年9月2日

京口門だより NO.71

この時節長雨がつづいています。あきの雨は秋雨とか秋霪雨(あきこさめ)と
いって蕭条(しょうじょう)と降る雨をさしていますが、今年は集中豪雨となっ
て被害が出ています。「秋雨や河はしづかに荒るる海」(水原秋櫻子)

夏の暑さがやや収まりかけると、秋の涼しさが顔をだしてきます。この時期
はアレルギー疾患、とくに鼻炎とか気管支喘息をもっている人には、症状が出
てきたり、悪化してくることがしばしば見られます。そのなかでも咳や痰がよく
出てくるようになります。かつては咳や痰は気道や気管支の問題としてみられ
ていましたが、今日ではいろいろな背景から起ってくるのが分るようになって
きました。

たとえば、感染後咳嗽といって風邪などをひいた後で、ウィルスや細菌がす
でにいなくなっても、咳だけが長引いて3週間以上続いていることがあります。
肺炎や肺結核などの病気がなくて、気道の過敏性が増して、咳が長く残ってし
まう状態です。病院では長引いても自然に治るからなどと言われて、期待はず
れになることがあります。このような感染性咳嗽は漢方治療の良い適応です。
漢方には長引く咳を治療する手立てがいろいろとあります。

長引く咳のなかには咳喘息という病気もあります。季節性で夜間から早朝に
かけて咳が出て、喘鳴などは認められない状態を言います。咳喘息が続くと3
割くらいの方がいわゆる気管支喘息に移行するとも言われています。現代医学
では咳喘息が長引くとすぐにステロイドの吸入が行われますが、この「たより」
で何度か申しましたように、漢方にはその人の喘息の特徴に合った漢方薬を備
えています。

耳鼻科の副鼻腔炎を背景にした咳もよく見られます。鼻汁が咽の奥に流れて
くる(後鼻漏)のが特徴で、咳だけでなく痰もともなうことがよく見られます。慢
性化すると「副鼻腔気管支症候群」という病気になり、喘息や気管支拡張症と
いった慢性病になることもあります。急性にしる慢性にしる副鼻腔炎は漢方薬
がよく効きます。かつて長い気管支喘息の患者さんで、自分は鼻が悪く後鼻漏
があると訴えても、いっこうに取り合ってもらえなかった方に、漢方で副鼻腔
炎の治療をしたら、喘息もずいぶん改善した方がおられました。

咳には漢方治療があることを忘れないでください。

